

立したと考えられます。もつと古くは白鳳時代頃(645年~710年)から河内寺(新居浜高木町)などの建立にもかかわっていたと思われまます。秦氏と賀茂氏は当時の京都でも松尾、伏見稲荷、上賀茂、下賀茂の神社の建立をしており両氏はとても深い関係にありました。

最近の発掘調査では、新居浜の本郷の辺りから、硯などがみつかつていて平安期には役所があった可能性があります。※2としてそれより前の中心地が飯岡、大生院ではなかったかと思われまます。国道沿いの喜来遺跡からは土管や硯、分銅などが出土し、役所は下本郷の辺りかもしれないと調査から考えられています。時代が下るにつれ中心地が今の市街地のほうへと徐々に移ったようです。役所は移動しましたが寺を移動することは困難であるため正法寺は今の位置に残ったと思われまます。正法寺と薬師庵寺は平安期から鎌倉初期まで特に栄えており、そのバックに新居氏と平家があり泥塔供養を行い寺の院号の往生院からも追善供養を盛んに行う特殊な地域であったと推測できます。今も田の穂乃木(田の名前。古代、木の名札をたてたことによる)に残る錦堂、鐘突堂、蓮池、築山という名があります。奈良時代にあった五つの大きな寺(河内寺、薬師庵寺、上野庵寺、真尊庵寺、正法寺)が律令制度とともに衰退しましたが正法寺が



昭和5年 発掘調査時出土



2011年 喜来遺跡



8/1 第2回試掘 緑釉、青磁発見



参考大阪 四天王寺軒丸瓦 蓮華紋



文化センターにて保管中100点程



10/30 第4回試掘 蓮華紋瓦



8/20 第3回試掘 泥塔 山内先生と埋文センター岡田氏



昭和5年鶴久森氏、大詮上人発掘調査時出土

残った理由に供養の地という重要な性格があったように思います。考古学においては過去の遺物や文献によって一つ一つ史実を明らかにすることが大切です。推測や思い入れで歴史を作らないよう今後、さらなる調査に基づき歴史を明らかにしてほしいものです。大生院とはそういう土地ですので皆様も普段から田や畑に落ちてくるものに注意なさってください。何か不思議なものを見つけた際は是非お声がけください。ご清聴ありがとうございます。

※1 昭和五年に発掘した際に見つかった奈良時代の蓮華紋の瓦。現在は寺にないが当時の出土物の写真に写っている。当時は瓦屋根が使われていたのは寺か貴族の館のみであった。

※2 縄文、弥生時代は今の西条、新居浜の市街地は海水で覆われていた。新居浜の上部地域のみ生活が可能であり古い遺跡は上部地域から出土している。半田山、八堂山など。

### 薬師大祭によせて 正法寺遺跡発掘調査報告

愛媛県文化財保護指導員で生涯学習大学講師の山内隆夫先生に正法寺下の田の発掘調査について講演頂きました。以降講演内容についてまとめました。

私は飯岡の薬師庵寺(現原八幡神社)の調査に関連して35年前に正法寺に来て瓦の調査をしたことがあります。その際、平安時代のお寺という印象をもちましたが今回はそれ以前よりあるかもしれないということをお話したいと思います。境内下の田が駐車場になるといふ事と、この一帯が埋蔵文化財包蔵地であるという事で試掘調査を行うことになりました。掘る場所につきましては、山の稜線や配置から目星をつけました。そして農地の為、浅いところから出土するのでは、と思っていた所、30cmという浅いところから出土しました。田の黒土が25cm、次に粘土層があり、遺物層が現れました。重機で慎重に作業し一堀目から泥塔(でいとう)を発見しました。その後、南北に一本入れるとそこからも出土し、その後は手掘りの作業となりました。全部で百以上の出土物がありました。泥塔は平安時代に主に密教寺院で息災延命、先祖供養の目的



今回出土の泥塔、下段のものは20cm近くある

に作られたものです。正法寺では多種多様なものが出ておりこれは国内でも大変珍しいことです。宝塔型のもは平安後期で四国ではこの地のみであり、中には20cm近くある大きく貴重なものも出土しました。この寺のものは台座が四角になっているのが特徴です。大小あるのは小さいものを一定数奉納した印として大型の物を作ったのではと考えられます。他には緑釉片、青磁片が出土しました。(当時は日本では青磁を作る技術が無いので高価なものでした。)以上の出土物から推測すると平安から鎌倉にかけて貴族、豪族によって泥塔供養が行われていたのは、ほぼ間違いないと思います。泥塔は火を浴びたものが多く鎌倉期などに火災にあっている可能性があり炭も出土しています。下に敷き詰められた石については詳しいことはわかりません。

誰によって作られたか? 推測であります。平安期にこの地には大勢力の新居氏や越智氏があり、特に新居氏は平清盛とも深い縁がありました。清盛は『吾妻鏡』などからも泥塔供養を行っていた史実があり新居氏が供養法を中央から取り入れた可能性が有ります。新居氏は各地に親戚、縁者が多いので奉納の際、多様な泥塔が集まったとも考えられます。今回解っているのはそこまでです。

お寺の起源については? 正法寺は上仙師によって奈良時代に開かれたという伝承があり、京都の太秦などで活躍していた秦氏の氏寺とも言われています。秦氏はこの地に縁が深く長曾我部、河野氏などは秦氏の出であり、この地域は秦や神野氏の方が大変多く住まわれています。新居郡になる前は神野郡(かみのぐん 809年まで)と言われており嵯峨天皇の幼名【賀美野(かみの)は秦氏出身の乳母の名から取られた】をさけて新居と改名されました。色々資料を調べると「日本霊異記」などの記述がまったくの作り話とは思えません。また飯岡八幡(薬師庵寺)から出土している※1瓦と正法寺のものは酷似しています。薬師庵寺は資料から西条市伊曾乃神社のあたりを拠点とした豪族の賀茂氏が建